

種子産地強化計画

計画(変更)策定年月日	令和3年3月16日(令和4年5月27日変更)
市町村名	富士見市
計画主体名	株式会社いるま野アグリ
計画主体代表者名	澤田 平司
住所(主たる事務所)	富士見市みどり野北76番
電話(主たる事務所)	049-254-3119

目 次

- 1 種子産地の現状と課題並びに将来方向
 - (1) 種子産地の面積及び戸数
 - (2) 産地の課題
 - (3) 若い種子生産者の育成・確保の考え方

- 2 当該種子産地における具体的な目標
 - (1) 種子生産者数
 - (2) 生産性の向上

- 3 目標実現のための方策

- 4 その他、目標達成のために特に留意する事項、方針

1 種子産地の現状と課題並びに将来方向

(1) 種子産地の面積及び戸数

	生産品目 及び品種名	種子生産 面積 (ha)	うち	種子生産 農家戸数 (戸)	うち
			認定農業者 (ha)		認定農業者 (戸)
計画策定時 (令和2年度)	小麦 ハナマンテン	1.7	1.7	1	1
計画変更時 (令和4年度)	小麦 ハナマンテン	2.1	2.1	1	1

(2) 産地の課題

・水田利用による小麦種子生産のため、排水対策が必須である。
 ・これまでに種子生産の経験がないため、採種関係制度に沿った審査を合格できるように、栽培管理する必要がある。
 ・作付けの都合上、一般麦の収穫作業の合間に種子用の麦の収穫作業が入る。そのため、その度に清掃作業を徹底する等対策を講じているが、コンタミネーションの恐れがある。また、清掃作業に時間がかかるため作業効率が下がり、適期収穫ができずに品質の低下を招いている。

(3) 若い種子生産者の育成・確保の考え方

・20～30代の若い社員が約半数を占め、主穀を担当する社員は小麦生産の栽培経験がある。
 ・今後は種子生産に応じた栽培や種子調製について社員の育成を行っていく。

2 当該産地における具体的な目標

(1) 種子生産者数

	種子生産 農家戸数	20代従業員	30代従業員	40代従業員	50代従業員	60代従業員
		数	数	数	数	数
計画策定時 (令和2年)	1法人	2	4	3	2	2
1年後 (令和3年)	1法人	2	5	3	3	2
2年度 (令和4年)	1法人	2	5	3	2	3
目標年度 (令和5年)	1法人	2	5	3	2	3

(2) 生産性の向上

区分	具体的な内容	数 値 目 標			
		計画策定時 (令和2年度)	1年後 (令和3年度)	2年後 (令和4年度)	目標年度 (令和5年度)
労力の削減	は種作業時間の削減	9.4h/ha (※1)	7.5h/ha (※1)	7.5h/ha (※1)	7.5h/ha (※1)
労力の削減	収穫作業時間の削減	4.2h/ha	4.2h/ha	3.3h/ha	3.3h/ha
その他	ハナマンテン採種面積	1.7ha	1.7ha	2.1ha	3.4ha
その他	小麦種子の品質安定	病虫害粒等 (0.5%以下)	病虫害粒等 (0.5%以下)	病虫害粒等 (0.5%以下)	病虫害粒等 (0.5%以下)

注:各項目の記載事項については、別記1の「2 当該産地における具体的な目標」を参照

※ は種機の修理・調整作業を含む

3 目標を実現するための方策

	具体的な取組内容		
	1年目(令和3年度)	2年目(令和4年度)	目標年度(令和5年度)
種子生産者数	・社員を確保するとともに、種子生産のための社員の育成を行っていく。	・社員を確保するとともに、種子生産のための社員の育成を行っていく。	・社員を確保するとともに、種子生産のための社員の育成を行っていく。
生産性向上	・は種機の導入を行い、作業の効率化を図る。	・作業方法の検討や見直しを随時行う。 ・採種専用のコンバインの導入を行い、作業の効率化を図る。	・作業方法の検討や見直しを随時行う。
その他			

(参考)必要とする助成措置

導入予定年度	相手先	具体的な取組内容 (施設・機械名等)	規模・金額
3年度	株式会社いるま野アグリ	スライドロール式播種機	1,020,800円
3年度	株式会社いるま野アグリ	計量選別機用 選別網B (2.20mm)	29,810円
3年度	株式会社いるま野アグリ	汎用遠赤乾燥機用 種子カード	66,000円
4年度	株式会社いるま野アグリ	普通型コンバイン	8,745,000円

* 標準小売価格

4 その他、目標達成のために特に留意する事項、方針

留意している事項、方針	<ul style="list-style-type: none"> ・採種ほ設置面積拡大に対応できるように、他の水田においても排水対策を実施し、高品質な小麦生産に努める。 ・採種ほ場は湛水できるほ場を選定し、雑草対策を徹底している。 ・穂発芽しやすい品種のため、適期に作業できるように努めている。
-------------	--

注:種子産地の若返りを推進するに当たって、目標の実現のため産地として特に留意している事項等を記入する。